

Cosmological Axis

理工学部 2 年

1.概要

ヨグヤカルタの都市は、王宮(クラトン)を中心に南北一直線の軸をもつ独特の都市計画で築かれています。この軸は「宇宙軸(コスモロジカル・アクシス)」と呼ばれ、北はメラピ山、南はインド洋へとつながっています。特に南の宇宙軸は、王宮から南へ伸びる道筋であり、都市と自然、さらには人間と宇宙の調和を象徴する重要な構造です。

2.歴史

この都市計画が始まったのは 1755 年、マタラム王国の分裂によってヨグヤカルタ王国が成立したときです。初代スルタンであるハメンクブウォノ 1 世は、王宮を建設する際に南北に一直線の軸を設けました。ジャワの伝統的な世界観では、山は神聖な存在、海は霊界の象徴と考えられており、その間に王宮を置くことで、王は宇宙の調和を守る存在として位置づけられました。

3.役割

南の宇宙軸は単なる道路や都市の通りではなく、さまざまな役割を担ってきました。

王の権威の象徴:王が宇宙と調和する存在であることを示す象徴的な空間。

儀式の舞台:即位式や宗教儀礼において、王や行列が通る道筋として使われた。

聖域と俗界の境界:南の終点には門が設けられ、王宮という聖なる空間と外の俗界を分けるしるしとなった。

4.現代の課題

2023 年、この宇宙軸と関連する歴史的建造物群はユネスコ世界遺産に登録されました。しかし、ICOMOS(国際記念物遺跡会議)の評価報告では、管理と保全に関して課題があると指摘されています。特に、王宮やその周辺の壁や建築物の修復・再建が、体系的な保全計画や透明なプロセスに十分基づいていない点が懸念されています。こうした状況は、世界遺産における真正性(authenticity)や完全性(integrity)に影響を及ぼす可能性があるため、ICOMOS は国際基準に沿った管理体制や修復ガイドラインの整備をインドネシア当局に勧告しています。

5.まとめ

ヨグヤカルタの南の宇宙軸は、18世紀以来、王の権威を示し、宇宙観を体現する都市計画の中核をなしてきました。その歴史的・文化的価値は高く評価され、世界遺産にも登録されています。一方で、現代においては保全の在り方が課題となっており、伝統的な価値を守りつつ、国際基準に即した管理が求められています。

